

ブラジル福岡県人会

中村 クリスチアネ 小百合

福岡教育大学教育学部

自分の出身国の事。福岡に来てから今日までのこと。

ブラジルから参りました、中村クリスチアネ小百合と申します。33歳で、日系3世です。

1929年7月29日に母方の祖父母と父方の祖父母は神戸港で「モンテビデオ丸」船に乗って、ブラジルへ行きました。両方とも福岡県出身で、名字はどちらも中村です。そこで二つの家族は初めて出会い、友情の物語が始まりました。それから40年後、父と母は結婚しました。私は家族5人兄弟の末っ子です。父のジョージは私が9歳の時に亡くなりました。母の小夜子は今70歳で、まだまだ元気いっぱいです。理香、里美、勇一、輝明、姉と兄達は、もうみんな結婚して、子供も何人もいます。家族全員揃うと、とても賑やかで楽しいです。みんなすごく仲が良く、こんな立派な家族のもとに生まれて、本当に私は幸せだと思います。

私はサンパウロ州のマリリア市と言う田舎の町に生まれました。人口は約20万人で、日本人と日系人がたくさんいます。子供の頃から日本文化の影響をすごく受けて育ちました。4歳から16歳まで日本語学校に通っていました。そこで、お話大会、習字、茶道、日本に関する色々な経験をしました。柔道や踊りをしたり、カラオケ大会にも参加しました。

人間関係について勉強することがずっと前から好きなので、2002年にサンパウロ市へ引っ越し、サンパウロ大学で心理学の勉強を始めました。2006年に卒業し、8年以上、輸入管理コーディネータとして貿易会社に勤めていました。

3年前、引率者として、県人会担い手育成招へい事業に参加する事が出来ました。本当に素晴らしい経験で、それからずっと、ブラジル福岡県人会の色々な活動や行事に参加しました。県人会の会員の皆様はいつも福岡県の留学の事を私に言っていたのですが、私はもう大分前に大学を卒業し、長い間とてもいい会社で仕事をしていましたので、わざわざ仕事をやめて留学をすることは考えていませんでした。でもみんなは、あきらめずに私を励まし続けて、会社の社長も「とてもいい経験」と言って勧めてくれましたので、少しずつ留学の事を考え始めるようになりました。そして、何を目指して一年間日本で生活するかも考え始めました。

私は母国のブラジルを愛しています。自然はきれいだし、人は暖かく、自然災害もあまりなくて、ブラジルは本当に素晴らしい国だと思います。けれども、いいことばかりではなく、暴力、差別、紛争、汚職、様々な問題もあります。どのように、この状況を変えられるか、どのようにすればもっと私の国に貢献出来るかと考えていた

ら、一つの道は教育、特に道德教育だと思いました。教育分野はかねてから自身の興味のある分野でもあります。子供達への教育を通してブラジルの社会や文化の発展に貢献したいという気持ちがどんどん強くなって、夢を描き始めました。でも、どこから始めるのが一つの問題でした。私達ブラジル人は日本国と日本人をととても尊敬しています。整理整頓、おもてなしの文化、礼儀、忍耐、決意、思いやりといったいわゆる道徳的な面を含めた教育理念を日本は伝統的に実践しているイメージがあります。この実践について勉強して、日本で実際の授業を受け、より多くの方々と話し、交流し、考え、知識を吸収して、いわゆる道徳心、公共意識などに関する実態を把握が出来たら、すごく勉強になるのではないかと思います、福岡県移住者子弟留学生になろうと決めました。

日本の学校における人格形成、道徳の教育方法を研究して、ブラジルの児童に対する教育プロジェクトを立案することを一つ目の目標に、現在、福岡教育大学で教育学を勉強しています。日本の教育制度、異文化交流の心理学、比較教育文化論、道德教育の方法を学んでいます。二つ目の目標は日本語の上達で、読み、書き、コミュニケーション、聴解、総合、色々な日本語の授業にも出ています。授業は全部日本語で、私は15年は日本語の勉強をしていませんでしたので、少し難しいです。でも、先生や同級生の皆様がいつもサポートしてくれますので、学生生活をすごく楽しんでます。そして、大学で習っている内容以外の、日本での一日の生活もすごく勉強になっています。日本人のマナーと習慣を見て、驚いたことがたくさんあります。例えば、風邪をひいた時、他の人にうつさないように、日本人はマスクをつけ、どこかに遊びに行ったら隣人や友達におみやげを持って行きます。お店やレストランに行くと、店員はいつもお辞儀をして、何回も「いらっしゃいませ」と接客の言葉を発します。公共交通機関で遅刻などがあつたら、乗務員はいつも謝っています。そして、バスを降りる人に必ずお礼を言います。誰かの横に座る前や、道ですれ違う人たちは、頭を浅くさげます。道にゴミ箱が少なくても、ゴミはちらかっていません。必ずゴミはゴミ箱か、家まで持って行きます。学校の壁に校訓がたくさんはっています。町の中でも「ありがとう、すみません、おはようございますと挨拶をしましょう」、「安全な町をつくりましょう」と、色々な看板を見たことがあります。この間、傘を忘れて、雨に濡れている時に、会ったことのないおばあさんに傘を借りて、すごく感動した経験もあります。

これだけの素晴らしい経験をさせてもらって、この留学はとても貴重な機会だと思います。それだけではなく、ホームステイ、バーベキュー、温泉、カラオケ、浴衣着付け、福岡県副知事に挨拶、テレビ番組、野球、観光、田植え、生け花と、私達留学生は色々な行事に参加し、様々な経験をする事が出来ます。桜、藤の花、バラ、チューリップ、あじさい、日本の春の美しさも見られます。さらに、ラーメン、お寿司、シュークリーム、もつ鍋、カレー、焼き鳥、博多通りもん、日本の美味しい物もたくさん食べています。そして国際交流センター、元の留学生、家族会の方々がいつも私達を心優しく支えてくれていますので、私は元気に毎日この新しい生活を過ごしています。これからも一生懸命勉強して、友達をたくさん作って、日本文化をもっと深く知り、たくさんいい思い出を作れるように、この一年間を楽しく過ごしたいと思っています。

ブラジル福岡県人会

浅野 レナン ゆうじ

九州大学大学院 経済学府

自分の出身国の事。福岡に来てから今日までのこと。

福岡市に住んで2ヶ月たった今、多くの経験をして時間が過ぎるのを早く感じています。いつも家族会と国際交流センターにお世話になっているおかげで、日本にうまくなじんできていると思います。それに、日本人は親切な国民性なので、いつも先輩や先生、店員や駅員などに手伝ってもらっています。

過去に2回日本に来たことがあります。福岡は初めてです。前回、私の日本語は下手だったので、ほとんどの用事を一人ですることができませんでした。今は、簡単なことは一人でできるので、すごく嬉しいです。しかし、もっと日本語の上達が必要だと思っています。この一年間の重要な目標です。12月に能力試験2級を受けたいので、大学の日本語の授業や新聞を読む宿題、毎日の会話から日本語を学ぶことを一所懸命頑張っています。



日本語が上達したら、もっと深く日本文化や日本人や大学のことなど学ぶことができ、色々な機会をもっと楽しめると思います。さらに、福岡の祖父母のことももっと知りたいです。五月の家族会のホームステイで偶然母方のルーツ

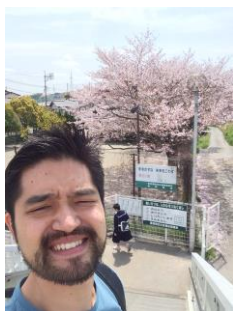
について知ることができました。「どうして祖父が移民したか」、「その時、何がおこったか」、「どうして近所には「平田」の名字が多いのか」を知りました。この母方「平田」の日本の親戚関係はもうなくなりました。日本へ来なかったら、このような大切なことを全く知らずにいたと思います。だから、感動しました。



父方の親戚は久留米に住んでいるので、私の保証人になってもらい、感謝しております。五月に久留米に会いに行き、おじさんの手紙や昔の写真、家系やお土産などを差しあげました。全部、喜んでくれて、柳川へ遊びに連れて行ってくれました。父方の親戚とは初めてお会いしました。日本語しか話せず、ブラジルへ行ったことがありません。それにブラジルに住んでいる親戚との関係が弱くなってきているので私の訪問は良い機会だったと思いま

す。親戚にこれから何回も会いたいし、それに母方の「須山」ルーツをもっと発見したいです。

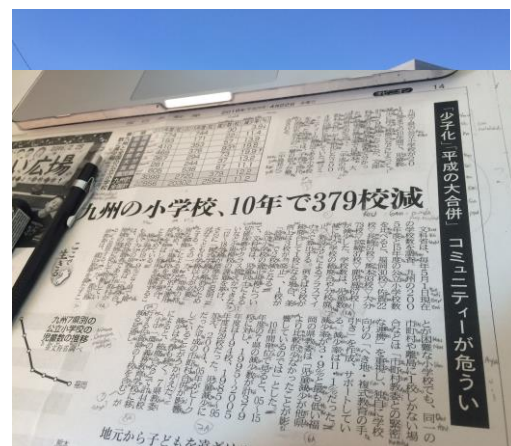
日本文化に関して、色々な面白いイベントと旅に参加しました。最初は和食を食べる経験です。ブラジルにも和食のレストランがあるけれど、日本の和食はもっと美味しく、選択肢も多いです。二番目は桜の花でした。日本に着いたばかりの頃に、すごくきれいな桜の公園に連れて行ってもらいました。初めての体験で素晴らしかったです。三番目は地震でした。ブラジルで地震はないので、怖かったです。そのあと色々なオリエンテーションと準備のことを教えてもらいました。大学の KUFSA(九州大学留学生会)と福岡市民防災センターへ行って、防災訓練をして、色々なことを学びました。熊本へボランティア活動に行きました。その間は、ブラジルに住んでいる日本人の友達が私のサポートをしてくれました。2日間しかありませんでしたが、熊本に住んでいる人と話して、片づけを手伝って、いい勉強になりました。日本の災害対策はすごいと思います。家族会の皆さんと8月に熊本に行く予定なので、もう一度行けると良いです。他の日本文化の経験はカラオケに二回も行って、野球とサッカーの試合をスタジアムで見たことです。全部楽しかったです！



私は九州大学の経済学府で色々なコースを受けています。私の日本語はまだ勉強中ですので、英語での授業も受けています。さらに、私の担当教員が毎週日本語で会議を行っています。宿題はいつも新聞のニュースを声で読んで、ディスカッションをします。いつもチャレンジです。日本語のコースを受けて、少しずつわかってきています。もう一つのコースはアントレプレナーに関してで、このコースが一番面白いです。私はブラジルの市場ビジネスが日本で有望かどうかをもっと知りたいです。主に社会問題について興味があります。



九州大学は留学生が多いので、たくさん面白いイベントがあり、できるだけ参加しています。多くの友達ができました。留学生だけでなく、日本人も毎週一緒に昼ご飯を食べています。その日本人の友達はアントレプレナーも興味があり、一緒に起業できるかもしれません。



私の目標の一つは自分自身を成長させることです。留学によって初めて家族と別に住んでいるので、料理を作ることや洗濯や掃除など色々な生活の問題を一人で解決することを学んでいます。留学生の寮で毎週みんなと一緒に晩ご飯を作っています。毎回僕が作ったときに皆が「おいしいです」と言ってくれるので、嬉しいです。他の県費留学生はみんなすごいです。一緒に色々な活動をしたり、お互いに教えたり、手伝っ



たり、学んだりしてるので、良い環境です。これから色々な面白いイベントがあるし、夏休みもすぐなので、自分のルーツをもっと知り、ビジネスの機会を発見したいと思います。どうもありがとうございます。

ブラジル福岡県人会

清水 サラ 愛実

九州産業大学芸術学部

自分の出身国の事。福岡に来てから今日までのこと。

初めまして、ブラジルサンパウロ市から参りました、清水愛実サラと申します。28年度の県費留学生です。現在、九州産業大学芸術学部の美術科で勉強しています。

日本にきてもう二ヶ月以上経ちます。短期間でこんなに多くのことを学べるとは思っていませんでした。移住者子弟として、そして、アーティストとしても、この留学生活は貴重な経験になってきています。

ブラジルの学校ではなかなか日本文化や歴史を深く学ぶチャンスがありません。自分のルーツや祖先がだんだん分からなくなってきた私や他の若者にとって、福岡県人会は本質的な活動をしていると思います。福岡とブラジルの文化的交流や技術・経済面でのつながりにおいて、福岡県人会がその接点として活動をしていると思います。

私は、福岡県人会がどのような組織か、昔、祖父から聞いたことがあります。それは福岡県出身の移住者がいつまでも祖国福岡を心のふるさととして忘れることなく、つらい入植地での生活に耐えるために、日本人として、また福岡県民として互いに助け合い協力し合うために、どの県よりも早く創立された県人会だと言うことです。これからは、亡き祖父母にかわり、県会の活動に参加させていただきたいと思っています。できれば、文化交流の特に芸術・美術関係で福岡とブラジルの架け橋としてお手伝いできれば幸いに思います。

そのためにも、母と祖父母の生まれた故郷をしっかりとこの目で確かめ、そして留学をして学んだことをブラジルで分かち合いたいと思います。

今回私が日本で学びたい事は二つあります。一つ目は研究生として、ブラジルで学べなかった日本独特の美術感覚を身に付けたい事と、二つ目は、それとは反対に、ブラジルの美術感覚を日本人に紹介してみたいことです。また、大学での研究だけではなく、日々の生活そのものが私の大きな学びになっていると思っています。

学校生活は忙しいですが楽しいです。毎日新しいことを学ぶ機会があって、感謝しています。今まで勉強したことのない日本画、日本の伝統的な美術感覚や現代美術を習い始めました。素晴らしい絵、版画や工芸を見て感心しました。日本語の授業を週4回受けています。私にとって漢字はとても難しいですが、スーパー、お手洗い、電車の駅でも練習ができていますので、少しずつ上達している気がします。二回ぐらい間違えて快速列車に乗ってしまい、降りる予定の駅を通り過ぎてしまったこともありました。いい体験になりました。

これからの9ヶ月も、がんばって大きく成長していきたいです。日本語を上達させて、日本文化と自分のルーツをもっと深く知りたいです。いつも応援して、サポートしてくれる、福岡県国際交流センターの方、家族会、県費留学生の先輩たちが守ってくれている感じがするので安心していきます。ありがとうございます。

ブラジル福岡県人会

池尻 直美 カレン

九州大学大学院 薬学府

自分の出身国の事。福岡に来てから今日までのこと。

初めまして 池尻カレン直美と申します。25歳です。

出身地はブラジル国、サンパウロ州、サンパウロ市です。サンカミロ大学で薬学のコースを卒業してから 一年間小さな薬局で働いていました。月曜日から金曜日の9時~18時まで色々な製剤を作りました。例えばカプセルや保湿クリームと溶液などです。その後で彼氏にいつも会います。時々週末に私は友達と出かけます。

毎週金曜日に北海道県人会の集まりで19時半から21時半まで、よさこいソーランの練習があります。時々、ダンスのプレゼンテーションがあります。ブラジルでも七夕祭りがあります。そこでみんなと一緒に踊って本当に楽しいです。さらに、北海道県人会で色々なイベントが行われます。有名なのは7月の日本祭りです。祭りは3日間で、みんな手伝います。大変ですが面白いです。私の住んでいた県ではありませんが、いつも手伝っています。

毎週火曜日と木曜日は7時から8時半まで日本語の授業がありました。それから、毎週土曜日の11時半から13時半まで英語の授業もありました。

家族は父と母と妹と私の4人です。そして、ミカと言う犬もいます。妹は他の町の大学に通っていますが、毎週末戻ってきます。薬学の勉強をしています。父と母は小さな工場と一緒に働いています。餃子とはるまきを作って様々なレストランに提供しています。時々私も両親を手伝いに行きます。

私の父の家族が福岡県で生まれました。しかし、あまり知らないのもっと私の家族のルーツについて知りたいと思います。私は家族と先祖のルーツを知りたいです。日本の事が大好きなので日本にもう一度来る事が夢でした。料理や文化や場所を全部知りたいし、友達も作りたいです。そして日本語をもっと勉強したいです。

私は 福岡県に到着したとき、列車の中がとても静かなことに驚きました。嬉しかったです。毎回電車の中は静かだから、眠ることができます。そして全ての電車は時間通りに到着します。もし遅れた時は、パネルを見れば、何分列車が遅れているかが分かります。他に嬉しかったことは店員です。店で店員は とても丁寧親切で、つねに良いサービスを提供しています。

日本の街で私を驚かせたことはゴミ箱がないことです。一般的に日本人は自分の家にごみを持って帰る習慣を持っているし、その後で捨てます。通りのほとんどは狭いです。時々狭い道でもたくさん車が走っているし、車を運転する事ができます。そして最後に驚いた事は信号です。誰もが信号を尊重します。ですから、信号が赤の時、車と歩行者がぶつかる事はありません。

ほとんどの公共トイレには、手を乾燥させるためのタオルや紙がありません。これは観光客のための問題だと思いますが、日本人はいつもタオルやハンカチを持っているので、問題はないようです。

最初の月は地震がありました。私はびっくりしましたが大丈夫でした。本当に困った事でした。

これからの私の目標は日本語を勉強する事です。子供の時に日本語をもっと勉強すればよかったです。今色々な新しい言葉を習いたいし、会話の中で自分自身を向上させたいです。薬学で多くの知識を得るためにも日本語を上達させたいです。そして、家族の先祖のルーツを知りたいです。日本に住んでいる私の親戚と連絡を取り合いたいです。

パラグアイ福岡県人会

山崎 亜希

中村学園大学 栄養科学部

自分の出身国の事。福岡に来てから今日までのこと。

私は、パラグアイ国イタプア県ピラポ市出身の日系3世です。パラグアイは南アメリカの中央南部に位置し、周りには他国に囲まれています。自然豊かな国で、農業と家畜が盛んです。私の住んでいるピラポ市の名前の由来は、母国語でもあるグアラニー語の「手で魚を取る」で、その言葉のとおり魚も多かったそうです。その土地に56年前に福岡県糸島市出身の祖父母が子供二人を連れて、はるばる遠いパラグアイへやって来ました。たどり着いたのは、森林ばかりで、過酷な作業の開拓から始まったそうです。ところが分けてもらったのは、湿気の多い、石がごろごろした条件の悪い土地でとても苦勞をしたそうです。人一倍貧乏だった山崎家も苦勞と努力により、今では総面積1200ヘクタールくらいの大きな土地を手に入れたそうです。お父さんの兄弟が営んでいるのは農業と牧畜です。植えているのは、大豆、麦、菜種、ひまわり、トウモロコシです。家畜は牛が700頭、豚、鶏、うずら等を育てています。

私の家族は、両親、美容師の妹と中学生になったばかりの弟の5人家族です。私は、現地の大学を卒業して、栄養士となりました。その後、移住地の診療所で働いていました。日系人が大勢訪れる診療所です。そこでやはり自分は、日本人向けの栄養管理が知りたいと思うようになり、今回応募させて頂きました。それと同時に両親にも、自分のルーツである福岡を娘に知って欲しいと言う願いがあったからです。

あっという間にもう、来日して3ヶ月が経とうとしています。忘れもしない4月4日、温かく出迎えてくれた家族会と国際交流センターの方々、私たちを待っていたかのように咲いていた満開の桜、とても親しみやすい留学生の仲間達。たくさんの方々のお陰で新しい環境にも慣れる事が出来ました。

日本へ来て困ったことは、電車に乗ることです。なぜなら母国には線路さえ存在しないからです。驚いたのは、どんなに混雑していても押し合いすることなく行列に並ぶことです。道端では、歩行者優先なので安心して歩けます。バスの中では寝ても盗難などの恐れもなく、信号で待つ時はエンジンを止めて省エネしていることです。一番驚いたのが4月14日と16日にあった地震です。初めて日本へ来た私は当然地震の経験も無いため、寮生たちと「キャーキャー」と言うばかりでした。

福岡の食べ物は絶品で、何を食べても最高に美味しいです。普段は市内で過ごしていますが一歩行けば自然を満喫することが出来る贅沢な場所です。他の留学生と一緒に様々な所へ行きました。ホークスの野球観戦、雨降りのどんたく祭り、伝統的な小石原焼、素晴らしく心打たれる河内藤園、大きすぎる南蔵院、恥ずかしがりながら入

った温泉、裸足でする田植え、ホームステイ、楽しいBBQ。この様にたくさんの企画をたてて下さる家族会の方々には、凄く感謝しています。

こちらでは、中村学園大学の栄養科学部で勉強させて頂いています。講義と実習があり、とても充実しています。時には専門用語が分からなかったり、話題に付いていけないこともありますが楽しく通っています。担当してくださっている大部先生は、素晴らしい教授でこんな私に申し訳ないくらい良くしてくれます。先生のゼミのグループにも加わり、料理教室、健康フェスタなどのスタッフとしてバックステージで一員として参加しています。

このように楽しく、時には忙しく過ごしていますが、毎日が新鮮で覚えることばかりです。勉強にも励み、日本文化にも触れ、大勢の人々と交流して過ごしていきたいです。またイベントや行事に積極的に参加したいと思っています。

ペルー福岡クラブ

松藤 福田 カルロス アウグスト

九州造形短期大学 造形芸術学科

自分の出身国の事。福岡に来てから今日までのこと。

はじめまして。ペルー福岡クラブの松藤カルロスと申します。ペルーは、南アメリカの西にある国です。観光地と食べものが有名です。私は首都のリマに住んでいます。そこには、国の1/3の人口が住んでいます。成長している国です。

応募の理由

ぼくがこの研修に応募したのは、イラストレーターとして仕事をしたいからです。ぼくは、テレビゲームのプロジェクトとフリーランスイラストレーターの仕事をしていました。専門学校で教えていました。ぼくは、もっとイラストについて勉強したかったです。でもペルーには、そのような場所はありませんでした。どこで勉強していいかわからなかったけれど、ペルー福岡クラブがこの留学制度を紹介してくれました。日本のイラストとマンガは、すごいです。だから知らないところに行ってコミックなどの文化を覚えたいと思いました。

経験

福岡に住んでまだ短いです。ぼくは、福岡はとてもきれいで静かだと思います。ごみが全然ありません。福岡は大きい町です。たくさん店があります。人のことを考えて、電車の中ではみんな静かです。

はじめての温泉でぼくは、のぼせてしまいました。でもおもしろかったです。

福岡県の副知事にあいさつに行きました。歓迎してくれて、ぼくたちはおみやげを渡しました。チュヨ（ペルーの帽子）をととても気に入ってかぶってくれました。

ゴールデンウィークには、河内藤園へ行きました。初めてたくさんの花を見て、ぼくはとてもきれいでびっくりしました。

ぼくは九州造形短期大学で勉強しています。大学が好きです。先生と友達は優しいです。日本語は難しいです。ぼくは週に四回日本語の授業があります。

福岡にきて30歳の誕生日をむかえました。友人や家族から離れて、ペルー以外でむかえるのは初めてだったので、少し不安でした。しかし、私はここで信じられないほどの人に出会い、良い友達を作ることができてラッキーでした。彼らのおかげで私は楽しくて幸せな時間を過ごすことができます。

ぼくは、大学のプロレスサークルに入りました。とても子供のときからプロレスが好きでした。ペルーでは有名ではありません。だから練習するところがあまりありません。でも日本では有名で、練習するところもたくさんあります。厳しいけどみんながんばっています。

ペルーにもデパートがあります。でも福岡のデパートは大きいです。天神と博多はたくさんの商店街があります。フルーツが高いです。ぼくは、びっくりしました。日本のメロンは4千円くらいします。でもペルーでは200円くらいです。ぼくは国を出てから、ペルーにはフルーツや野菜がいっぱいあることと安いことを感じました。

目標

ぼくの今年の目標は、

- 日本語をおぼえて、話せるようになりたいです。
- 自分のマンガを描きたい。もっと上手にイラストを描けるようになりたい。そしてペルーに帰ったらその技術を教えたいです。
- 私は日本人の友達をたくさんつくりたいです。

ボリビア福岡県人会

八田 生香

福岡医療専門学校 柔道整復科

自分の出身国の事。福岡に来てから今日までのこと。

日系三世の私はボリビアで生まれ、日本人サンフアン移住地で育ちました。高校からは町で暮らし、現地の人に混ざり生活していましたが、みんなとどこか違う自分がいました。3年前に初めて福岡に来たとき、やっぱり私は日本人なんだと実感しました。子弟招へい事業は私にルーツを教えてくださいました。

時は第二次世界大戦後、戦争に敗れた日本は貧困に陥り苦しい生活を送っていました。「土地 50 丁をただでやる」と当時ボリビアの大統領だった Victor Paz Estensoro が話を持ちかけたところ、より良い暮らしを求め、たくさんの日本人が移住を決意しました。祖母も夫と二歳の私の父を連れて旅立ちました。そんなおいしい話の裏では、ボリビア革命真っ最中で、鉱山の国有化、農地の開拓を遂行できるだけの十分な労働力が当時のボリビアにはなかったため、他国からの移住者を受け入れる積極的な姿勢をとっていたのです。

3ヶ月かけてたどり着いたところは果てしないジャングル。言葉もわからないし蚊がところかまわず刺してくる。森を切り開き、集落を作り、一世が築き上げたサンフアン日本人移住地は 60 周年を迎えました。

今では農業で成果を上げ、国の経済に貢献し、高い評価を得ています。「valiente 勇敢な者だけが残った」と 85 歳になる祖母は、認知症ながらも移住当時の事を忘れることはないようです。

移住者には一家族 50 ヘクタール与えられましたが、今となっては平均土地面積は 500 ヘクタールまでに成長しました。八田家も代々農家の家系で米や大豆、養鶏などをしています。

これまで理学療法士として勤めていましたが、私がやっていることは日本では柔道整復士にあたる分野と知りこの研修に参加しました。患者さんをリハビリする上でとても役に立つので鍼灸の授業も受けさせてもらっています。

日本語を話すことは難しくはありませんが、教科書の専門用語、筋肉の名前など漢字に戸惑ったりしながらも勉強しています。福岡医療専門学校は実技ができる環境がとても整っていて、知識、技術そして人間性を備えた先生方に教えてもらい充実した学生生活を送っています。術者として恥じない人材を育てることが目的で、またその中でも身だしなみは厳しく指導しています。たとえば髪を染めない、アクセサ

リー禁止、すっきりした髪型など驚くことばかりです。今後国へ帰ったときも実施していきたいと思います。

3ヶ月が経ちようやく体も日本での生活リズムに慣れてきました。食べ物はおいしい安全なのが最高です。四季がはっきり分かれていて、季節ごとの食べ物やお祭りもまた魅力的です。

日本文化も勉強の一環として、さまざまな行事に家族会の方々が招待してくれます。浴衣の着付けや、田植えなど貴重な体験をさせてもらっています。

人生の中の11ヶ月間という短い研修生活のなかで、一日一日を楽しく過ごし、さまざまな経験と発見をし、悔いなく日本での生活を送りたいと思います。